

2026年3月期決算ハイライト および 「中期計画2024」の見直し

2026年5月13日



目次

I. 2025年度の決算ハイライト	… p.2 - 13
II. 2026年度の業績予想	… p.14 - 15
III. 資本政策・株主還元	… p.16 - 17
IV. 「中期計画2024」の見直し	… p.18 - 24

未来を、ひろげる。



ひろぎんホールディングス

I. 2025年度の決算ハイライト

2025年度決算の概要

- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は、前年比79億円増益の437億円となり、2年連続で過去最高を更新。
- ▶ 連結ROEは、前年比1.3ポイント上昇の8.2%。

連結業績サマリー

(億円)

	2025年度	前年比	(増減率)	3月6日公表比
連結粗利益	1,215	87	(7.7%)	
(除く国債等債券関係損益)	1 1,398	207		
資金利益	1,042	185		
役務取引等利益	278	18		
特定取引・その他業務利益	△ 105	△ 115		
(うち国債等債券関係損益)	2 △ 183	△ 121		
営業経費 (△)	3 695	54		
与信費用 (△)	33	4		
株式等関係損益	2 129	74		
持分法による投資損益	0	0		
その他	2	△ 6		
経常利益	620	99	(18.9%)	5
特別損益	△ 5	6		
法人税等合計 (△)	177	26		
非支配株主に帰属する当期純利益 (△)	0	0		
親会社株主に帰属する当期純利益	437	79	(22.0%)	7
営業経費率 ※	49.7%	△ 4.2%		
連結ROE	8.2%	1.3%		

※ 営業経費率 = 営業経費 ÷ (連結粗利益 - 国債等債券関係損益)

2025年度決算のポイント

1 連結粗利益 (除く国債等債券関係損益)

- 地元を中心とした残高の積上げと預貸金利回り差の改善による貸出金収支の増加や、有価証券運用における収益力強化により、銀行の資金利益が大幅に増加
- 証券を中心にグループ会社の増益も寄与し、役務取引等利益も増加

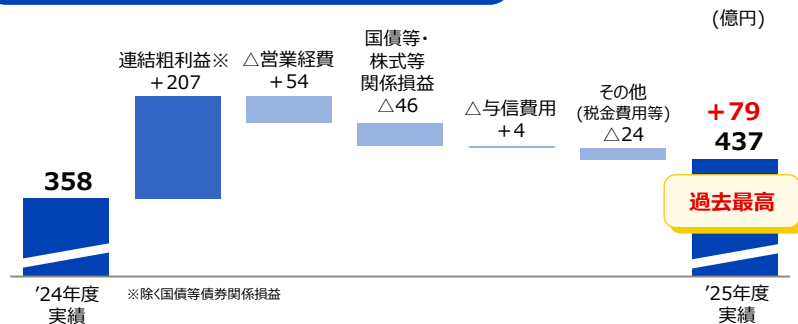
2 国債等債券関係損益/株式等関係損益

- 株式等の売却益を計上した一方で、ポートフォリオ改善に向け、低利回りの債券を約3,000億円処分

3 営業経費

- 人的資本投資やDX・IT投資を中心とした、成長投資へ積極的に投入
- 一方で、トップラインの伸長により営業経費率は大幅に改善

親会社株主に帰属する当期純利益の増減要因



主要グループ会社の実績 - 広島銀行 -

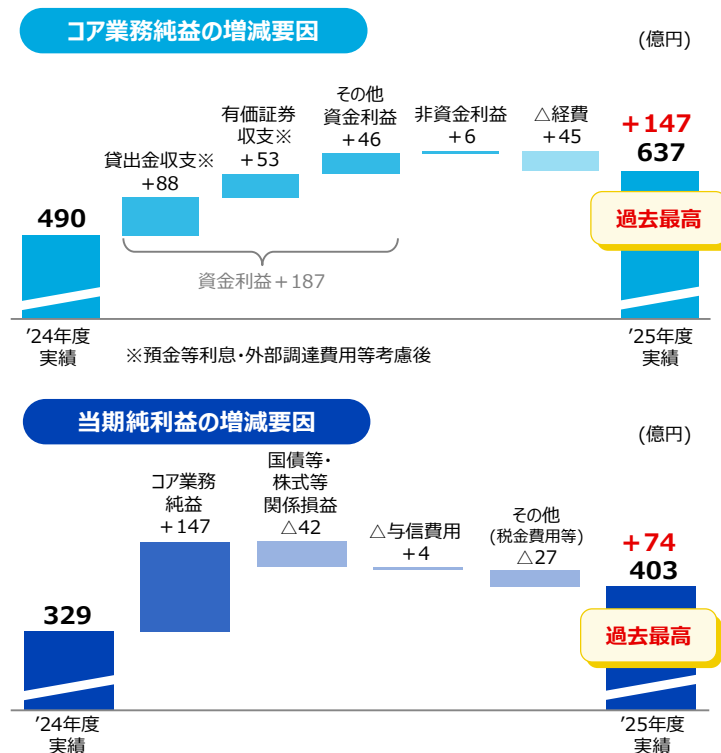
- ▶ コア業務純益(除く投信解約損益)は前年比147億円増益の637億円、当期純利益は前年比74億円増益の403億円となり、ともに過去最高を更新。

広島銀行 業績サマリー

(億円)

	2025年度	前年比	(増減率)
コア業務粗利益	1,257	192	(18.1%)
資金利益	1,046	187	
非資金利益	211	6	
法人ソリューション	86	10	
アセットマネジメント	39	△ 2	
個人ローン関連収益	35	0	
その他(内国為替、外国為替等)	51	△ 2	
経費(除く臨時処理分) (△)	620	45	
コア業務純益	637	147	(29.9%)
コア業務純益(除く投信解約損益)	637	147	(29.9%)
国債等債券関係損益	△ 181	△ 119	
実質業務純益	455	28	(6.6%)
与信費用 (△)	27	4	
株式等関係損益	132	77	
その他臨時損益	8	△ 9	
経常利益	569	92	(19.3%)
特別損益	△ 5	6	
法人税等合計 (△)	160	24	
当期純利益	403	74	(22.4%)

コア業務純益・当期純利益の増減要因



主要グループ会社の実績 - 広島銀行以外 -

- ▶ 各社とも業績は概ね増益。
- ・ ひろぎん証券の好調な業績が牽引し、グループ会社当期純利益の合計は前年比7億41百万円増益。

主要グループ会社 業績サマリー

金融連結子会社

非金融連結子会社

ひろぎん証券

(百万円)	2025年度	前年比
業務粗利益	5,910	1,191
経常利益	1,665	987
当期純利益	1,174	696

ひろぎんリース

(百万円)	2025年度	前年比
業務粗利益	3,284	294
経常利益	1,438	△ 36
当期純利益	1,001	61

しまなみ債権回収

(百万円)	2025年度	前年比
業務粗利益	796	112
経常利益	273	176
当期純利益	200	145

ひろぎんキャピタルパートナーズ

(百万円)	2025年度	前年比
業務粗利益	245	13
経常利益	△ 383	△ 470
当期純利益	△ 264	△ 324

ひろぎんクレジットサービス

(百万円)	2025年度	前年比
業務粗利益	4,063	0
経常利益	2,018	111
当期純利益	1,338	84

保有株式等の評価損にかかる損失△444

ひろぎんライフパートナーズ※

(百万円)	2025年度	前年比
業務粗利益	52	45
経常利益	△ 2	54
当期純利益	△ 2	37

ひろぎんヒューマンリソース

(百万円)	2025年度	前年比
業務粗利益	335	27
経常利益	47	15
当期純利益	33	17

ひろぎんエリアデザイン

(百万円)	2025年度	前年比
業務粗利益	488	141
経常利益	91	32
当期純利益	77	26

ひろぎんITソリューションズ

(百万円)	2025年度	前年比
業務粗利益	1,004	△ 4
経常利益	110	△ 3
当期純利益	73	△ 8

グループ会社当期純利益※

(百万円)	2025年度	前年比
グループ会社 当期純利益	3,746	741

※ 銀行を除く連結子会社等の当期純利益に
出資比率を乗じた額の合計

※ '24年1月設立、7月事業開始

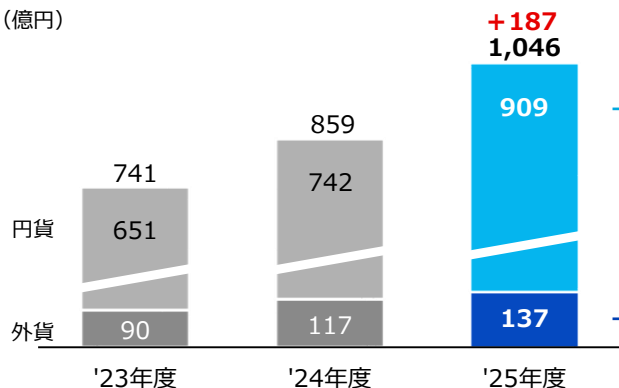
主要グループ会社の実績 - 広島銀行以外 -

主要グループ会社 実績

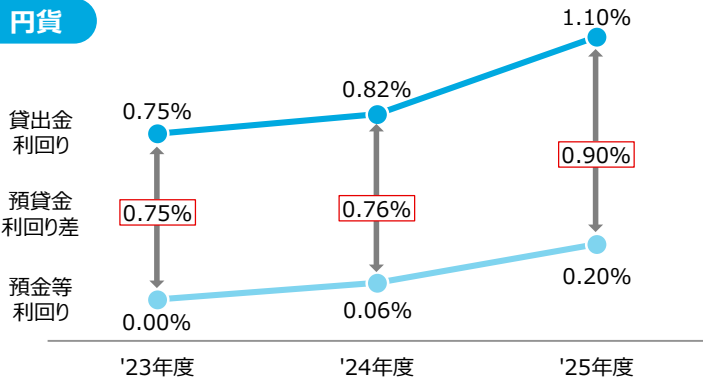
金融連結子会社	ひろぎん証券	預り資産残高	'25/3末 9,853億円	➡	'26/3末 1兆1,900億円	'25/3末比 (+2,047億円)
	ひろぎんリース	営業資産 (リース資産・割賦債権・営業貸付金合計)	'25/3末 908億円	➡	'26/3末 937億円	'25/3末比 (+29億円)
	しまなみ債権回収	債権買取額	'24年度 4億円	➡	'25年度 7億円	'24年度比 (+3億円)
	ひろぎんキャピタル パートナーズ	出資残高 (ファンド・プリンシパル投資合計)	'25/3末 50億円	➡	'26/3末 106億円	'25/3末比 (+56億円)
	ひろぎんクレジットサービス	保証残高	'25/3末 1兆933億円	➡	'26/3末 1兆1,700億円	'25/3末比 (+767億円)
	ひろぎんライフパートナーズ <small>'24年1月設立、7月事業開始</small>	金融商品仲介口座数 <small>※設立以降累計</small>	'25/3末 94口座	➡	'26/3末 293口座	'25/3末比 (+199口座)
非金融連結子会社	ひろぎんヒューマンリソース <small>'21年4月設立</small>	顧問契約社数	'25/3末 142社	➡	'26/3末 152社	'25/3末比 (+10社)
	ひろぎんエリアデザイン <small>'21年4月設立</small>	受注案件数 <small>※設立以降累計</small>	'25/3末 115件	➡	'26/3末 164件	'25/3末比 (+49件)
	ひろぎんITソリューションズ <small>'21年1月子会社化</small>	案件成約件数 <small>※子会社化以降累計</small>	'25/3末 694件	➡	'26/3末 902件	'25/3末比 (+208件)

資金利益

(億円)

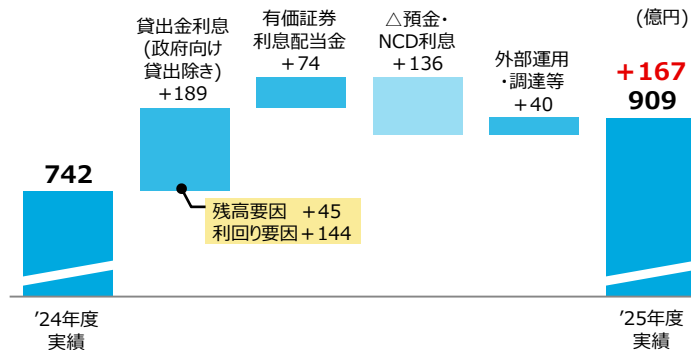


預貸金利回り

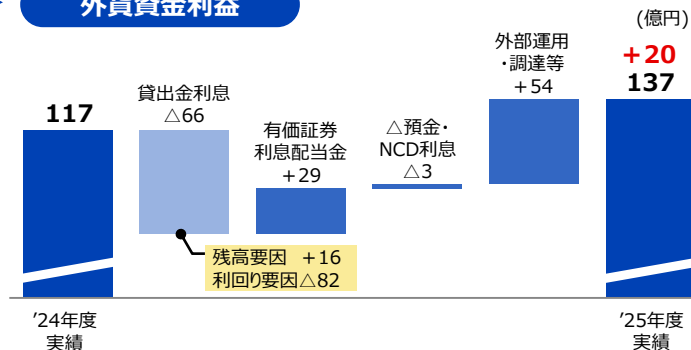


資金利益の増減要因

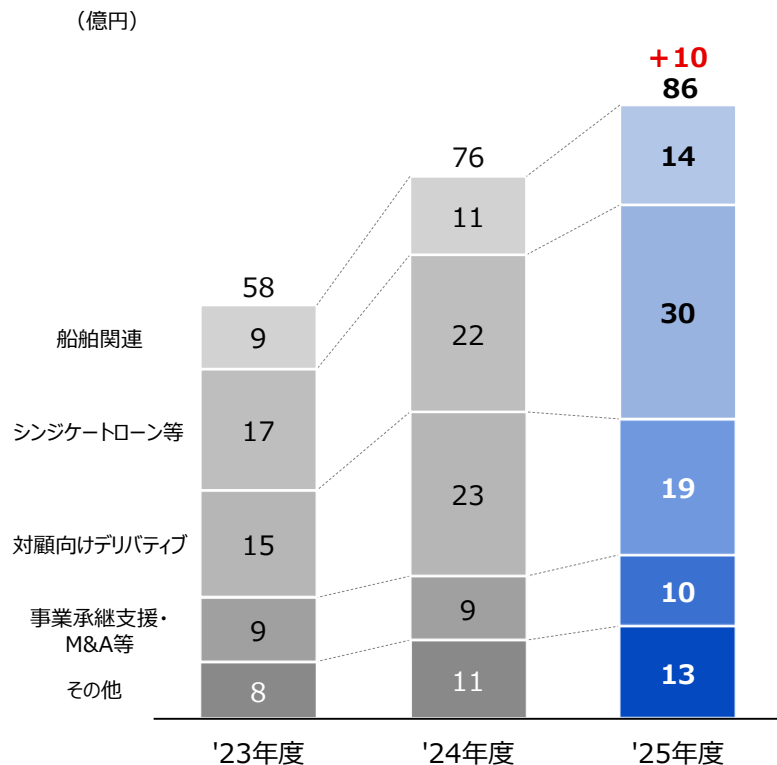
円貨資金利益



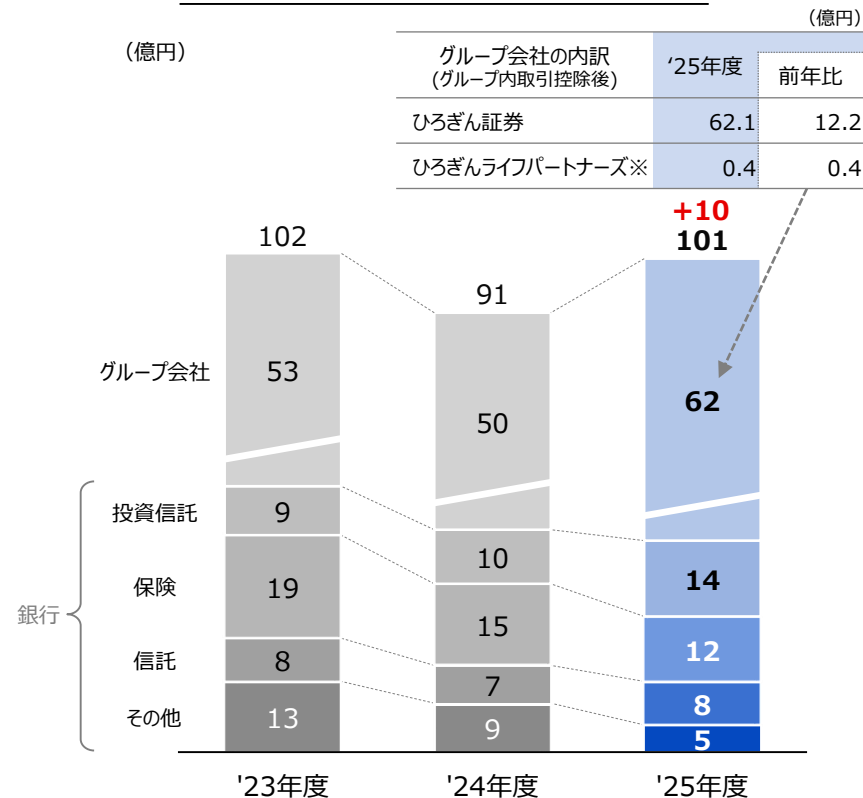
外貨資金利益



【銀行単体】法人ソリューションの内訳



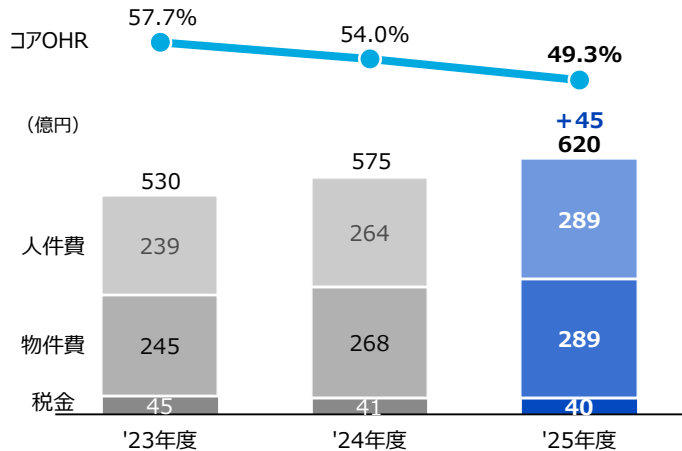
【HD連結】アセットマネジメントの内訳 (グループ合計)



※ ひろぎんライフパートナーズは、'24年7月事業開始

経費（除く臨時処理分）・コアOHR

$$\text{コアOHR} = \frac{\text{経費}}{\text{コア業務粗利益}}$$

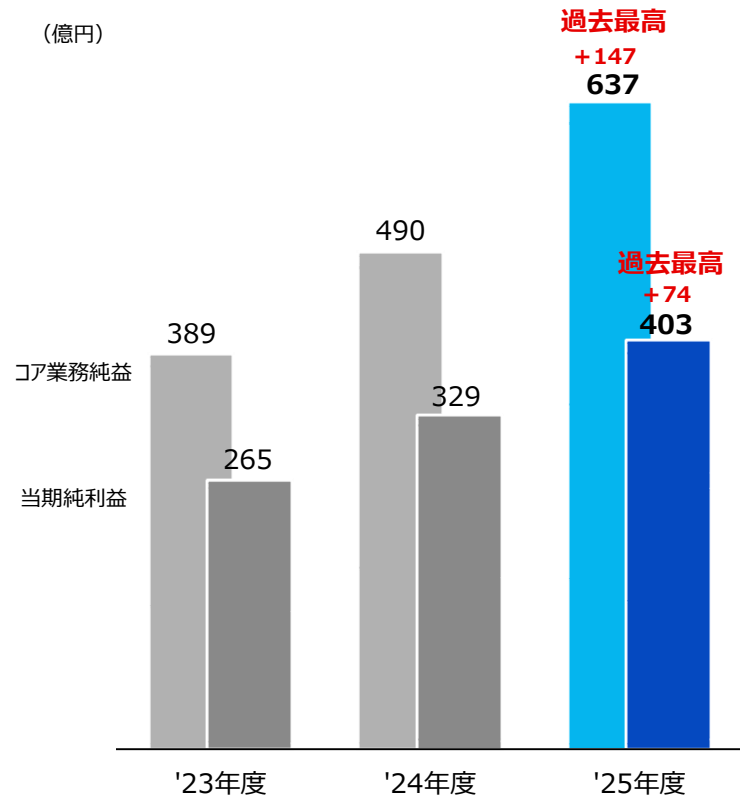


(参考) 経費の主な増減要因

- 人件費 **+25億円**
 - 人的資本投資 + 23 (人事制度改定、業績連動賞与、ペア等)
- 物件費 **+21億円**
 - DX・IT投資関連 + 10
 - 人的資本投資 (研修等) + 1
- 税金 **△1億円**

計 +45億円

コア業務純益／当期純利益

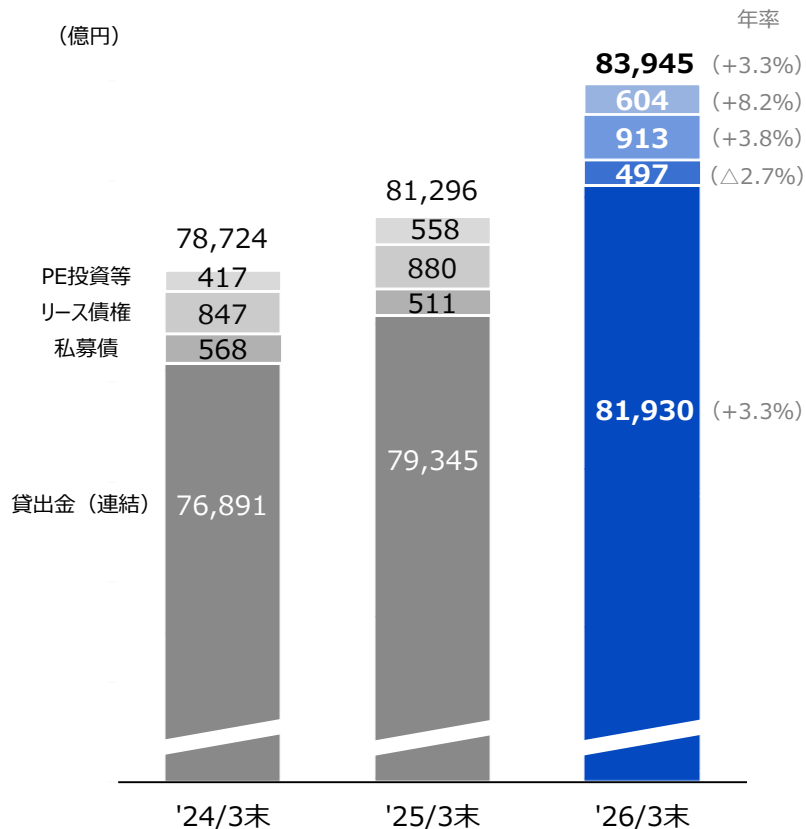


グループ総与信（未残）・貸出金（未残）

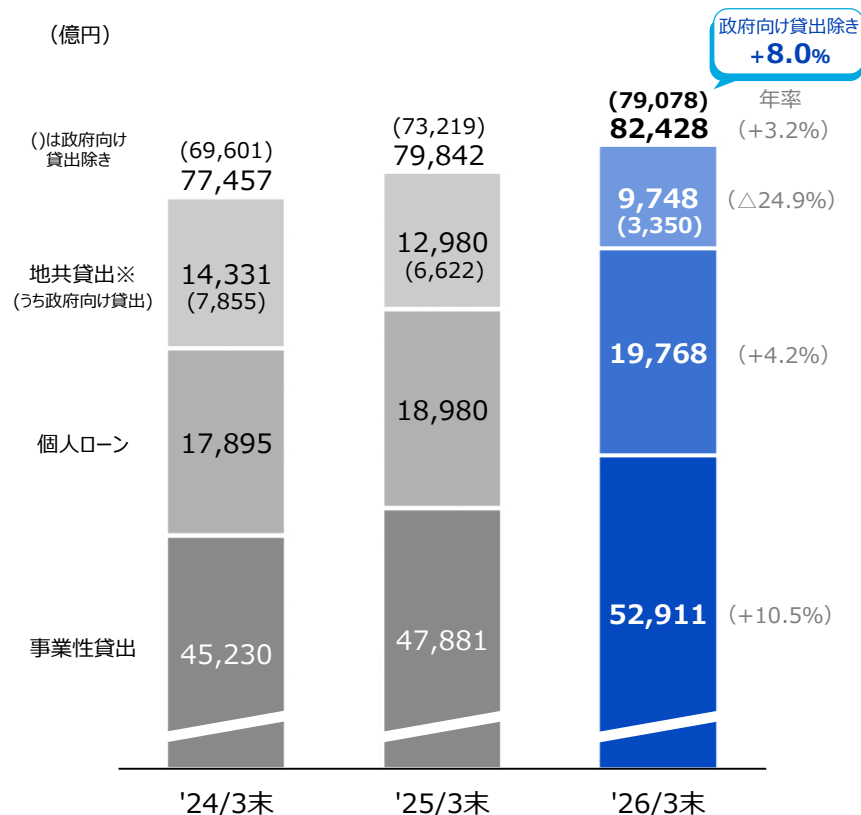
HD連結

広島銀行単体

【HD連結】グループ総与信（未残）



【銀行単体】貸出金（未残）



※ 地共貸出…地方公共団体、公社および政府向けの貸出

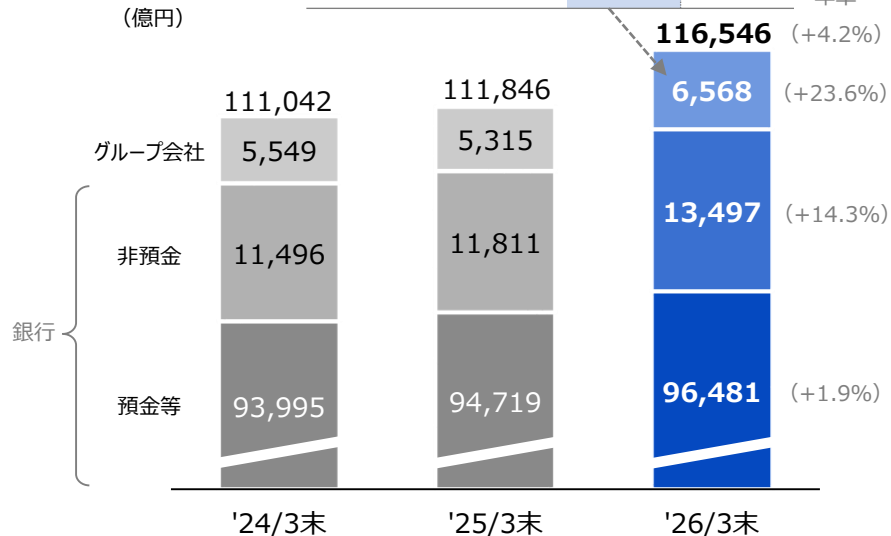
総預り資産（グループ合計 未残）、預金等（未残）

HD連結

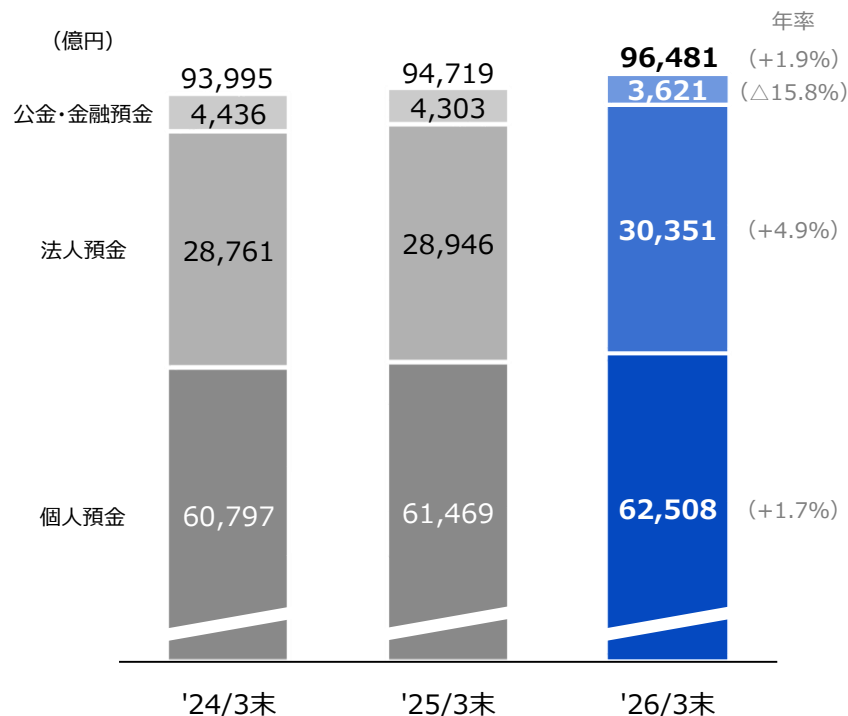
広島銀行単体

【HD連結】総預り資産（グループ合計 未残）

		(億円)	
グループ会社の内訳	'26/3末	'25/3末	比
ひろぎん証券※1	6,511	1,200	
ひろぎんライフパートナーズ	56	52	年率



【銀行単体】預金等（未残）



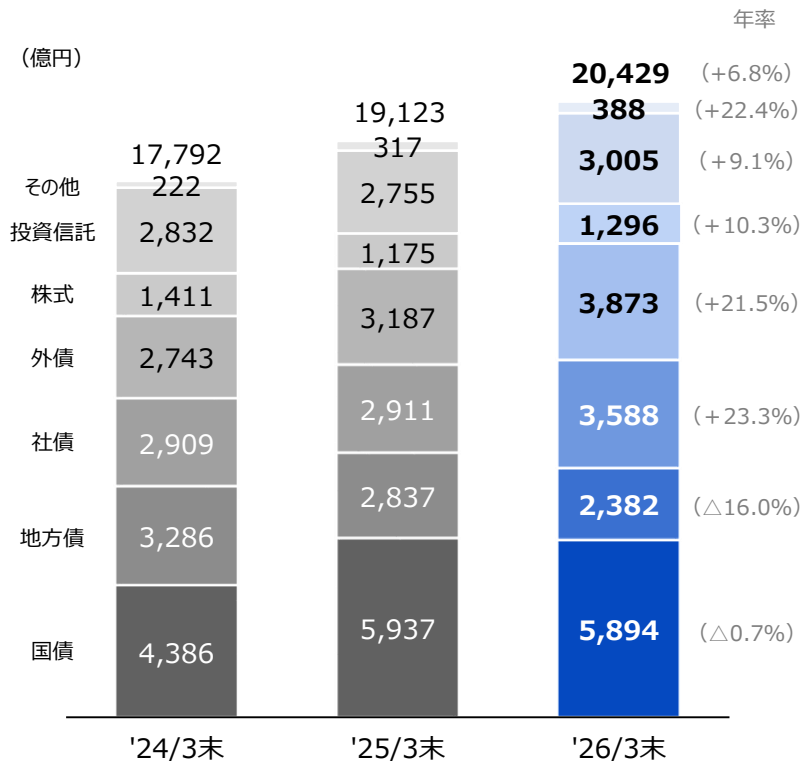
※1 ひろぎん証券の残高には、金融商品仲介は含んでおりません。

※2 グループ会社の残高は、時価ベースです。

※3 「ひろぎんアプリ」を通じた金融商品仲介（楽天証券・SBI証券）は含んでおりません。

※ 預金等は、譲渡性預金を含んでおります。

有価証券（未残）



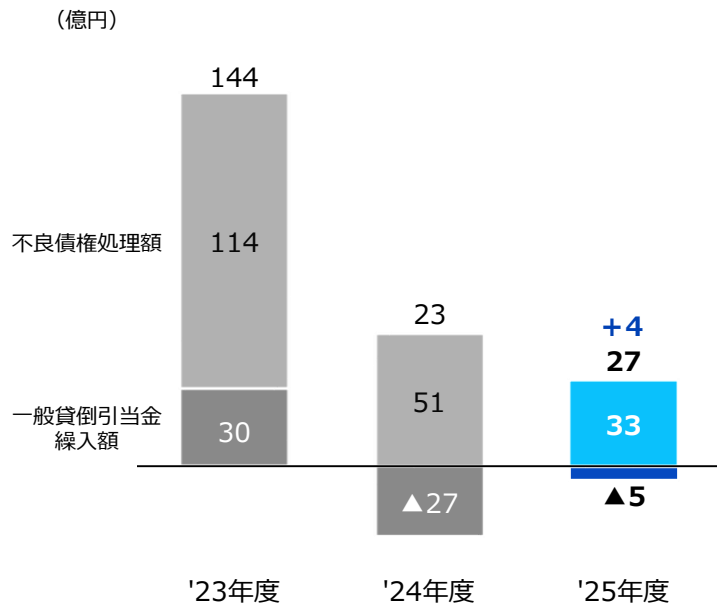
有価証券評価損益

	(億円)	
	'26/3末	'25/3末比
満期保有目的	△ 68	△ 37
その他有価証券 ※	△ 128	150
株式	656	204
債券	△ 1,282	△ 593
国債	△ 831	△ 411
地方債	△ 155	△ 30
社債	△ 295	△ 152
その他	498	540
うち外債	△ 67	77
うち投資信託	566	474
合計	△ 196	114
※ヘッジ考慮後の評価損益		
その他有価証券(ヘッジ考慮前)	△ 128	150
金利スワップ	493	410
その他有価証券(ヘッジ考慮後)	364	559

	'25年度	前年比
有価証券利回り (外部調達コスト控除後)	1.00%	+0.33%

当初の「中期計画2024」目標
(残高2兆円、利回り1%以上)
を前倒しで達成

与信費用・与信費用比率

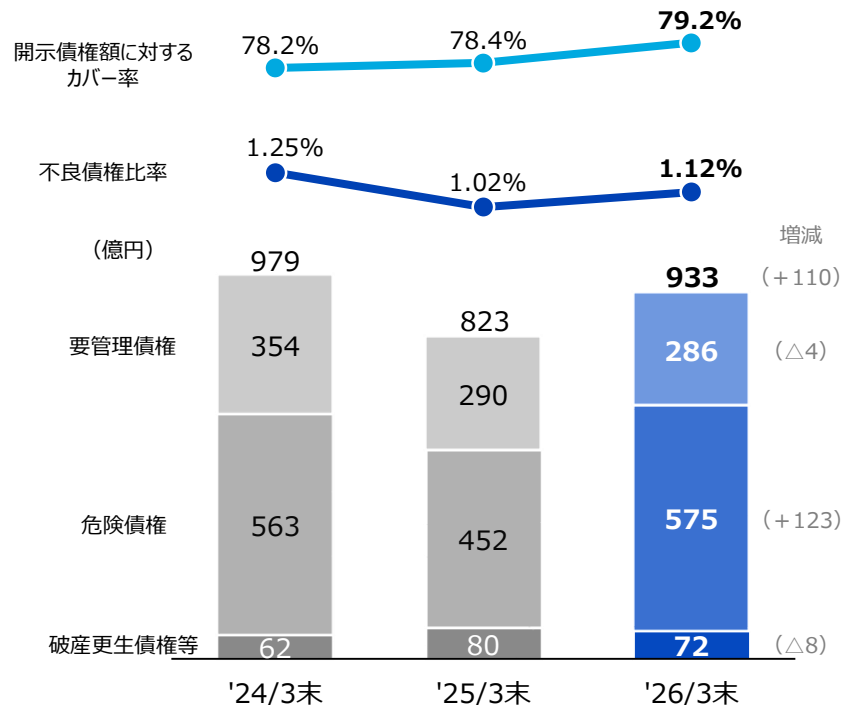


	'23年度	'24年度	'25年度
与信費用比率※	0.18%	0.02%	0.03%

※ 与信費用比率 = 与信費用 ÷ 貸出金残高

金融再生法開示債権額・不良債権比率

$$\text{不良債権比率} = \frac{\text{金融再生法開示債権額}}{\text{総与信}} \quad \text{開示債権額に対するカバー率} = \frac{\text{カバー額 (貸倒引当金 + 担保保証等による保全)}}{\text{金融再生法開示債権額}}$$



未来を、ひろげる。



II. 2026年度の業績予想

2026年度の業績予想

- ▶ 2026年度の親会社株主に帰属する当期純利益は、3年連続の過去最高益となる510億円を見込む。

【HD連結】 (億円)

	中間期 業績予想	2026年度 業績予想	前年比
経常利益	345	745	125
親会社株主に帰属する 当期純利益	235	510	73
連結ROE		8.7%	0.5%

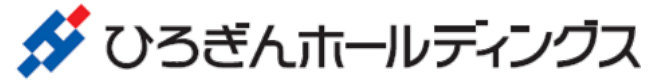
業績予想の前提となるマーケットシナリオ

円貨金利：(短期) 日銀政策金利 1.25%※ (長期) 10年国債金利 2.30%
 外貨金利：(短期) FF金利 3.50%※ (長期) 米10年国債金利 4.30%
 為替(ドル/円)： 150円
 日経平均株価： 55,000円
 ※2027年3月末時点

(参考) 広島銀行の2026年度の個別業績予想 (億円)

	中間期 業績予想	2026年度 業績予想	前年比
資金利益		1,185	139
非資金利益		215	4
コア業務粗利益		1,400	143
経費 (△)		665	45
コア業務純益		735	98
うち有価証券関係損益		15	64
うち与信費用 (△)		70	43
経常利益	320	685	116
当期純利益	220	475	72

未来を、ひろげる。



Ⅲ. 資本政策・株主還元

資本政策・株主還元

配当性向

利益成長を通じた1株当たり配当金の安定的かつ持続的な増加を基本とし、**配当性向を40%程度**といたします

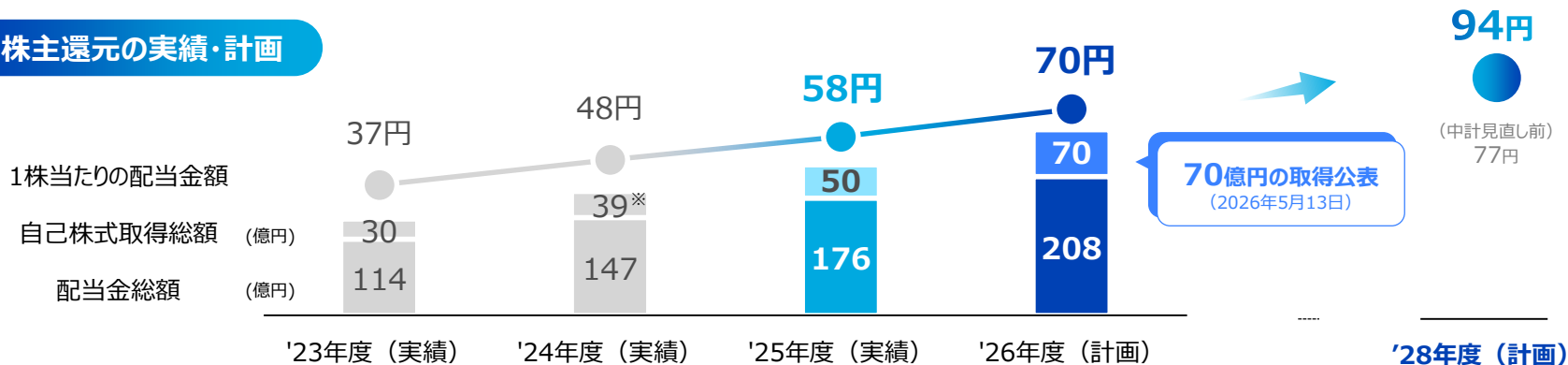
自己株式取得

財務の健全性を維持する中、業績動向や市場環境等を総合的に考慮したうえで**機動的に実施**いたします

2026年度 自己資本比率目標

(HD連結・銀行単体) 10%程度

株主還元の実績・計画



	'23年度 (実績)	'24年度 (実績)	'25年度 (実績)	'26年度 (計画)	'28年度 (計画)
配当性向	41.0%	40.5%	39.8%	40.5%	約40%
総還元性向	52.2%	51.7% [※]	51.6%	54.5%	-
DOE	2.4%	3.0%	3.4%	3.9%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	276億円	358億円	437億円	510億円	700億円

※ 取得額50億円のうち100万株は、ひろしま美術館に対する賛助を目的とした第三者割当による自己株式処分を実施しており、実質的な取得額は39億円として算出
 (注) DOEは、配当総額÷株主資本(期初・期末平均)にて算出

未来を、ひろげる。



IV. 「中期計画2024」の見直し

2028年度目標の主な見直し内容

見直し内容（中計最終年度：2028年度目標）

見直し前

見直し後

経営指標

連結ROE

9.5%以上 → 11%以上

連結自己
資本比率

10%程度 → 10%程度
(変更なし)

連結BPS

2,000円以上 → 2,200円以上

目指す
利益水準

親会社株主に
帰属する
当期純利益

570億円 → 700億円

見直しの背景（中計最終年度：2028年度の見通し）

Point
1

事業性貸出残高の堅調な伸び

詳細p.20

見直し前

見直し後

残高（平残）

5.5兆円程度 → 6兆円程度

年率

3%程度 → 6%程度

Point
2

有価証券ポートフォリオの改善

詳細p.21

見直し前

見直し後

資金利益

225億円 → 345億円

利回り

1.1%以上 → 1.7%程度

Point
3

政策金利シナリオの見直し

見直し前

見直し後

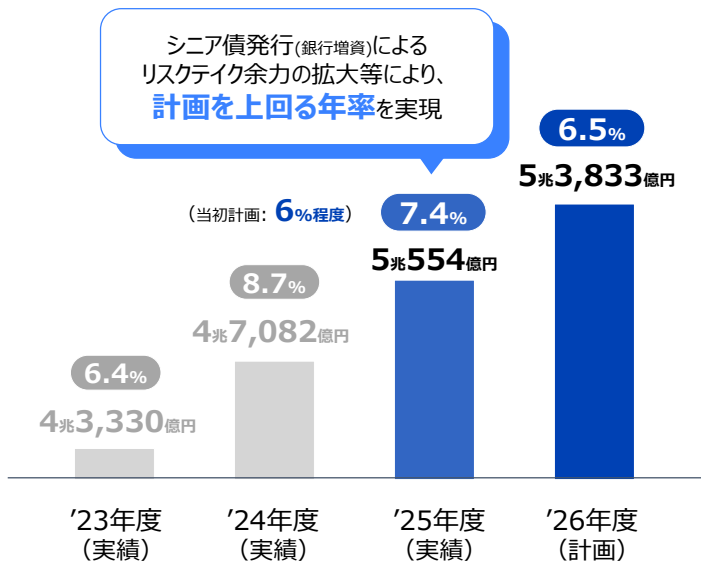
日銀政策金利

1.00% → 1.50%

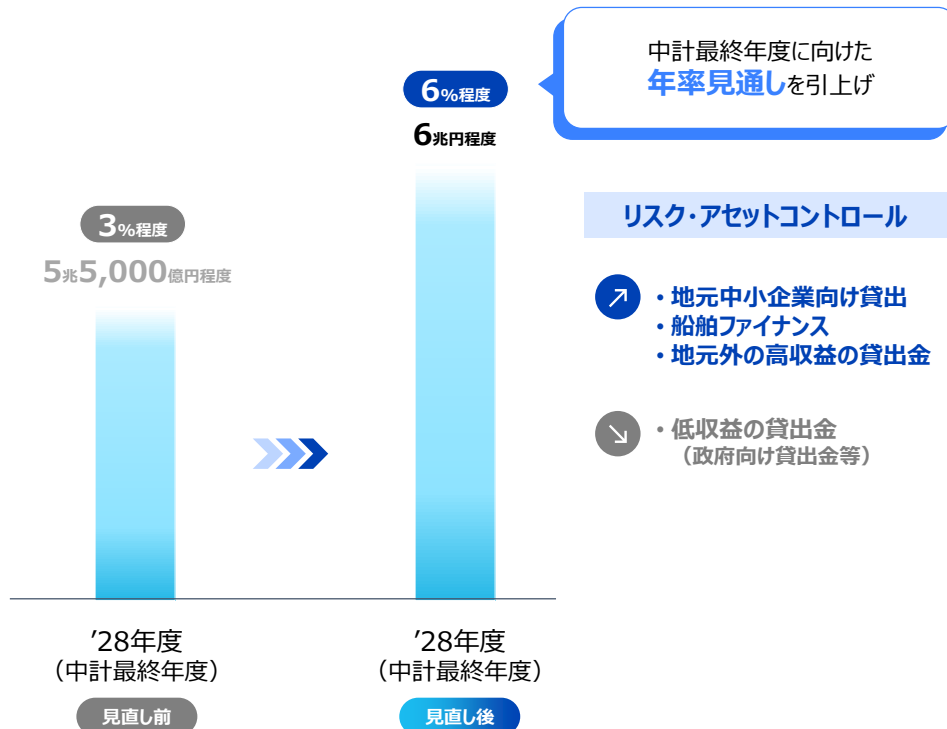
「中期計画2024」の進捗と今後の見通し - 事業性貸出 -

事業性貸出の進捗

● は、年率



中計最終年度(2028年度)の見通し



(注) 残高は平残

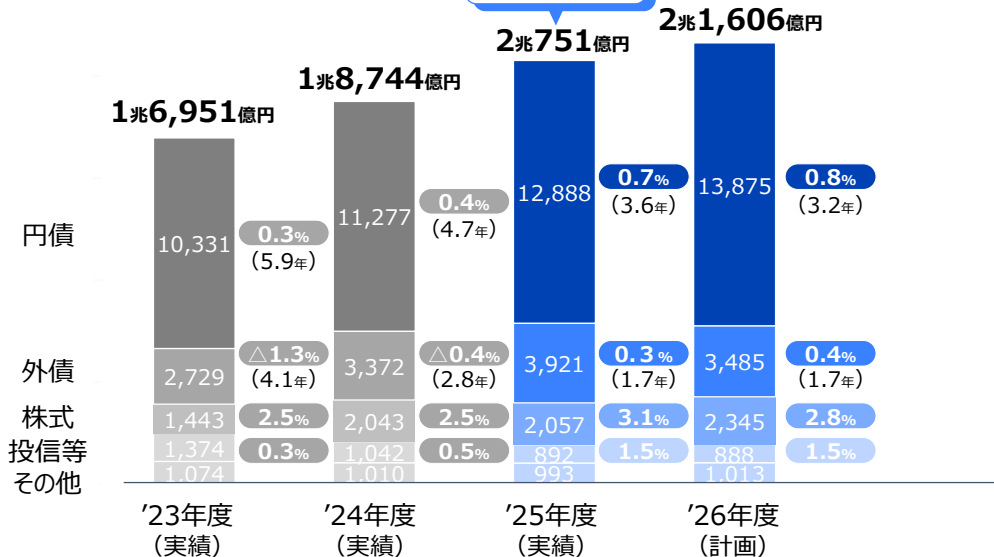
「中期計画2024」の進捗と今後の見通し - 有価証券運用 -

有価証券ポートフォリオ再構築の進捗

利回り	0.37%	0.67%	1.00%	約1.16%
資金利益	62億円	125億円	208億円	250億円
売買損益	62億円	▲3億円	▲49億円	15億円

() は、デフレーション

低利回りの債券を
約3,000億円売却



中計最終年度（2028年度）の見通し

利回り	約1.1%	約1.7%
資金利益	225億円	345億円
売買損益	15億円	15億円

利回り計画
を引上げ

2兆円程度

2兆円程度

'28年度
(中計最終年度)

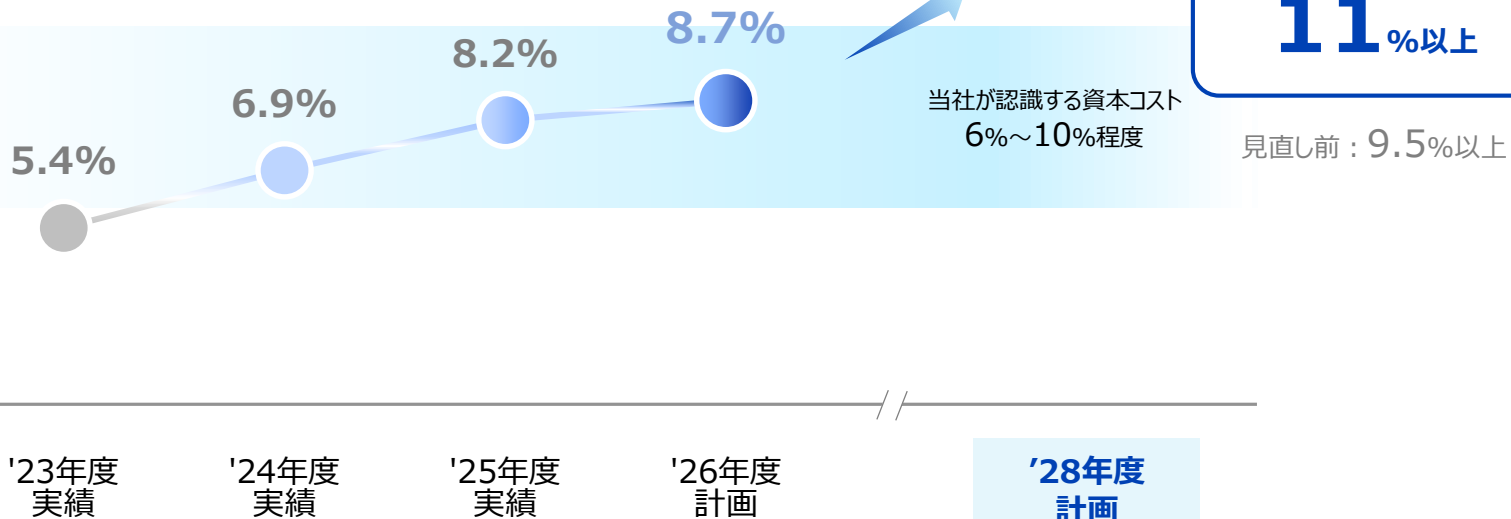
'28年度
(中計最終年度)

見直し前

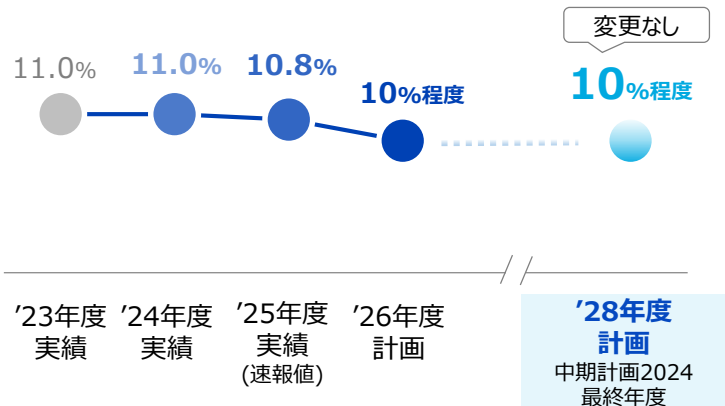
見直し後

(注) 内部管理計数ベース、残高は平残（簿価ベース）、
利回りは外部調達費用考慮後、有価証券残高（全体）に政策投資含み、投信等に特定金銭信託含む

上方修正 連結ROE

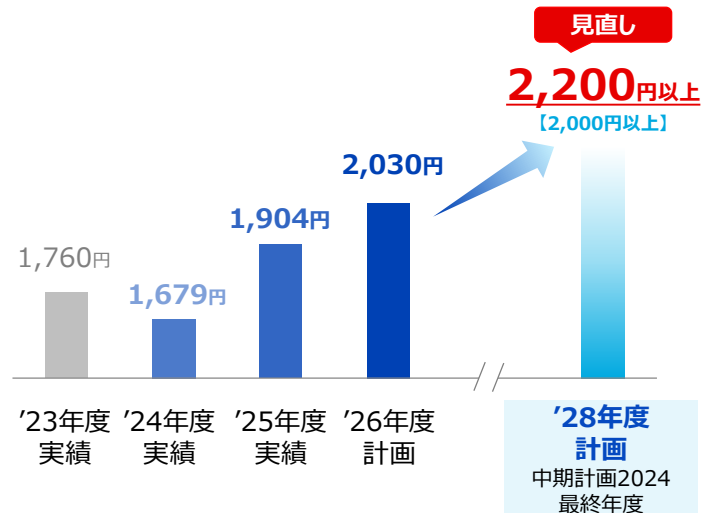


変更なし 連結自己資本比率



上方修正 連結BPS

【 】内は見直し前の目標値



地域活性化指標の達成に向けた当社グループの取組み

地域活性化指標

広島県の
人口社会増減

減少幅縮小
(2028年)

広島県の
観光消費額

継続的な増加※
(2028年)

広島県の
温室効果ガス排出量

継続的な削減
(2028年度)

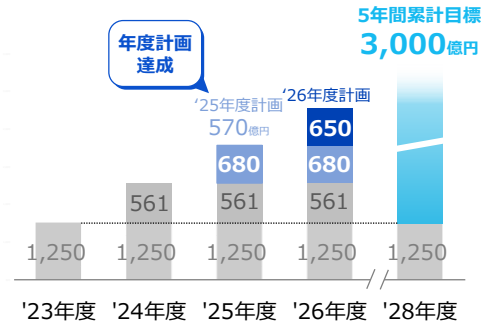
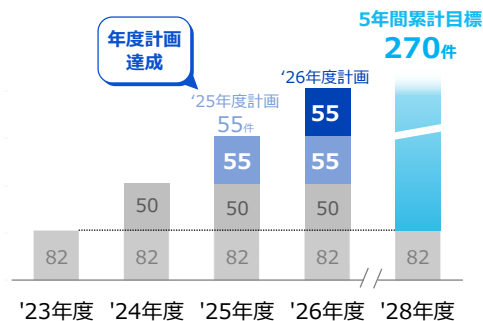
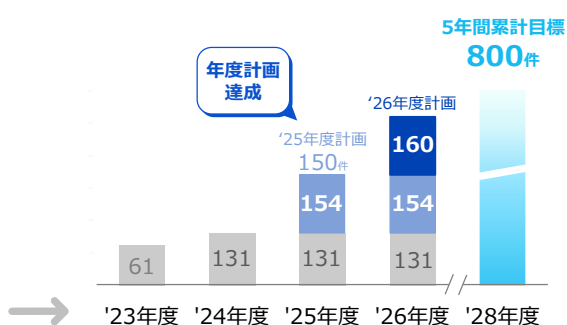
(※) 通過型から周遊型・滞在型観光へシフトすることにより単価を引き上げる

当社グループの取組み

変更なし スタートアップ・ベンチャー支援の件数

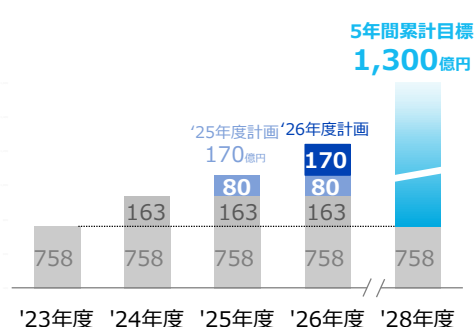
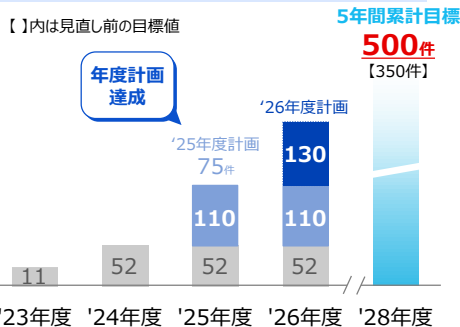
変更なし 街づくり・地域開発への関与件数

変更なし 環境ファイナンス実行額



上方修正 人材紹介の件数

変更なし 観光業への投融資額



「人材紹介の件数」の
5年間累計目標を上方修正